

令和3年度 第2回 高砂市総合政策審議会 第2部会

議事録

開催日時	令和3年 11 月 11 日(木)14:00～16:00					
開催場所	高砂市文化保健センター					
会長 副会長	田端 和彦 部会長					
委員 (名簿順) 出席 28人	出席	中尾 進委員	出席	増田 賢藏委員	出席	松井 藍委員
	出席	清水 美代子委員	出席	眞榮 和紘委員	出席	寺延 順市委員
	出席	西牟田 和子委員	出席	藤原 英修委員	出席	村松 眞由佳委員
	出席	山里 護委員	出席	田端 和彦委員	出席	稲垣 稔委員
	欠席	増田 章吾委員	出席	破魔 淳司委員	出席	山口 光一委員
	出席	小林 誠委員				
議事	協議事項 令和3年度実施市民満足度調査結果を受けて、満足度を上げるための協議 (1)第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン)令和3年度中間評価について ・基本目標2 2-1から2-5の各政策の今後の展開について ・基本目標4 4-1から4-4の各政策の今後の展開について (2)その他					
資 料	事前配付資料 次第 高砂市総合政策審議会の運営に関する規程 高砂市総合政策審議会委員名簿 第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン)令和3年度中間評価 市民満足度調査結果					

議事の経過
開 会 <本日の資料の確認> <本日の進行について説明> <事務局・オブザーバー紹介> <会議の成立> 部会長 挨拶 この審議会では、計画を作ったり、その進捗を確認したり、うまくいっているかどうかを評価することも審議会のお仕事であり、本日は評価が中心となります。PDCA を回すということが行政の中では重要視されていますが、そればかりに重点を置きすぎて実際に行われているかにもう少し気を配ることや、特に市民を巻き込むときに、どれだけ計画や進捗度を理解い

ただけるかが重要です。そのためにも行政内部の評価だけではなく、市民評価も非常に大事で、いかに市民に納得いただけるかを皆様に議論いただきたいと思いますので、忌憚のないご意見をお願いします。

協議事項 1

第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン)令和3年度中間評価

(部会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料に基づき説明。

市が行っている政策及び施策に対する行政評価をお願いします。併せて、今後の政策に必要なものをご議論いただきます。第2部会では、総合計画の基本目標1と3について取り扱います。

(部会長)

政策評価という KPI が上がっていけば、政策が成り立っていくということになります。

事業とは、実施し政策を実現するために高砂市がどのような仕事をやっていくかということです。中間評価としては、各部の政策に対する考え方を記載しています。その下に審議会評価という項目がありますが、今日皆さんでご議論いただいたことを評価として記載していきます。

3-3 愛着と誇りを感じるまち【移住・定住、関係人口政策】

(委員)

KPI について、加古川市・明石市・神戸市への転出者数が減っているが、各市への人数は把握していますか。加古川市に転出するということは意味合いが違ってくると思うので。明石市は子育て世代が転出した可能性や、神戸市へは仕事が変わったなどの要因も考えられます。ポストコロナを考えて移動を少なくすることも考えられるが、原因分析をして対策をしないといけないのではないのでしょうか。

(事務局)

転入転出の差し引きである転出超過者数しか分かりませんが、加古川市へは 57 人、明石市へは 52 人、神戸市へは 130 人です。差し引きなので、1,122 人の内訳ではありませんのでご了承ください。

(委員)

この数字だけでは読みとれるものはないと思いますが、何らかの原因があるのではないのでしょうか。住宅事情なのか、子育てや教育への支援のところなのかということなのか、年齢的なものなのか評価して施策を考えていくべきではないのでしょうか。

(事務局)

高砂市の特徴として、転入が 0 歳～9 歳までは 69 人多く、10 歳～19 歳も 23 人多い状

況です。ところが、20代～50代になってくると転出が多くなり、20代では276人、30代は48人、40代は36人、50代は22人の転出超過となっています。

子育て世代は入ってきていますが、就職される20、30代は出ていかれているのではないかと考えてます。

(部会長)

もしかしたら子育て世代から評価されているのではないかとということですが、全体でみると仕事の都合で出ておられるという事務局からの回答でした。

(委員)

今後の対応欄のところで、コロナ以前の観光はどのようにしていて、コロナがあったから今はこのように展開していくかということをお聞かせください。

(シティプロモーション室長)

今までは、実行委員会とともに大きな観光イベントとして万灯祭を実施してきましたが、コロナの影響で2年間開催できていません。次年度以降は対応していきたいと考えています。コロナの中でお出かけをどのようにするのかということですが、土地が平坦であることを活かして自転車で観光して高砂市の四季を感じていただけないかを検討しています。日本遺産に指定された古い町並み、生石神社、鹿島神社、コウノトリの飛来とか点在していて活用が難しいということもあります。自転車はスポーツ用のサイクリングというわけではなく普段乗りの自転車でゆっくりと市内を回っていただき市内の良さを感じてもらえるような取り組みができないかを考えています。

(部会長)

転出者数のデータから読み取ると、魅力を作っていくことは実は行政では難しいということとは重々分かってはいるのですが、一定課題があるということは先ほどの意見からも理解できます。

(委員)

アンケート結果について、ほとんどの項目で「どちらとも言えない」が7～8割です。どのような認識を持たれていますか。

(事務局)

回答の選択肢として「わからない」という項目をつくっていないのが1点と、「ふつう」や「特徴がない」という良くも悪くもないという評価を「どちらとも言えない」と入れておられるのだと考えています。

(委員)

私もアンケートを行いますが、4択で中間をおかないというやり方と3択にして中間をおくというやり方があります。

重要度は個人の感覚的なもので正しく反映されていないのではないかと感じました。

(部会長)

アンケートの作り方として中間をどうするかという問題もあります。「どちらとも言えない」を0として評価としたということです。複数の分野別に分けて信頼度や妥当性を見るという方法も統計的には見る方法があるので分析していただければと思います。

(委員)

実際に市民にとって具体的なイメージができるものは満足度が高いですが、イメージしにく

いものは満足度が低いように感じました。具体的に市民生活にかかわるところは高い評価が出ています。

(部会長)

統計的な手法で検討をお願いします。そういった影響は大きいと考えており、項目ごとの信頼度ということで確認してもらいたいです。

(委員)

地域資源というのは何を言うかを明らかにしないといけないと思います。政策評価の中では結構広がり、観光ということもありますが、本当の意味での移住、定住ということが妥当なのか非常に疑問を感じます。

それから、満足度は年代によって違うと思います。20～30代の意向を分析した方が良いです。高齢者はいろいろなところで分析できていると思いますが、子育て世代、働き世代をつなぎ留めておくための施策を検討していただきたいです。

(部会長)

貴重なご意見で、20、30代に刺さる地域資源を行政が認識してそれを発信なり提供しているかどうかということだと思います。

(委員)

親戚に結婚適齢期の女の子がいて結婚を考えている方もいます。高砂市に住むのか、加古川市に住むのかで拮抗しています。子育て、医療は高砂市の方が充実しており、中学生にも手厚い医療がある高砂。仕事も続けたいので、旦那さんは通勤が大変であると特急が停まらないというどうしようもないことを言われるそうです。

また、個人事業主は育休を取るにも取れないなど、手厚くないです。おそらく他市も同じですが、個人事業主に対する支援があれば、他市とは違う取組みになるのではないのでしょうか。

(部会長)

ご提案いただいたのは、子育ての問題は近隣とあまり変わらないのであれば、仕事という部分が課題ならばそこへの支援を検討してはどうかというご意見です。個人事業主へはどこまで保証できるのかということはあると思いますが、行政ができることもあります。男性の育休率を入札の条件として入れることも可能かと思います。

(委員)

障がい者就労サービス利用者の増ということですが、コロナ禍で減っているのではないですか。

(福祉部長)

回数ではなくて人数で評価をしています。今年度に入り市外になるが新たな事業所ができている状況もあります。

(部会長)

回数ではなく人数ということなのでいただくお金は減っているのではないかということです。数が増えるからよいということではなく、労働に見合ったお金になっているかどうか課題です。

(委員)

先ほど自転車で観光という話がありましたが、1日どっぴりと滞在してもらえる方が高砂市の時代に合っているのではないかと思います。向島公園とかも含めてゆっくりと魅力を

感じてもらえるような仕組みがあると面白いと思います。子育て世代は動くよりもゆっくりしたいというニーズがあります。

(シティプロモーション室長)

向島公園もたくさんのお子様連れが訪れる場所で、数少ない水遊びができる空間でもあります。市の池公園や高砂町にも古民家を活用したカフェがたくさんできていて次々と訪れてお楽しみいただけています。

(部会長)

地域資源の定義ということですが、20～30代に刺さるかもご回答あればお願いします。

(委員)

他市では大きなコスモス畑があり駐車場もあり食べるところもある、ふぁーみんへ多くの人々が来られています。

高砂市では、鹿嶋神社、高御位山に登る人が駐車場に車だけ停めて登ってしまう。駐車場を整備して北山が良い所なので、季節毎に活用できるものを考えられるのではないのでしょうか。

(部会長)

北山の当たりが活用できるのではないかというご提案です。ご回答はすぐには難しいでしょうから、先ほどの委員が言われた地域資源の活用のひとつの部分であると思います。

働くことについてのアピールが不足しているので他ではやっていないことをやってみることで注目されれば差別化できるのではないかというご提案もありました。観光で回ること拠点を決めて滞在してもらうというご提案もありました。事務局でまとめていただきますようお願いします。

3-1 誰もが社会に参加し、その人らしく活躍するまち【活躍・労働政策】

(委員)

KPIの就労系の障害福祉サービス利用者数について、一般企業の障害者枠も入っていますか。

(福祉部長)

あくまでも就労系障害福祉サービスのサービス利用者で、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援の3つの支援の利用者数で集計しており、いわゆる雇用率の関係の数字とは関係ありません。

(委員)

就労系の利用者が一般企業に移行された数というのは分かりますか。

(福祉部長)

申し訳ありませんが、資料を持ち合わせておらず、それぞれの人々がどのようになったかということについても担当が把握しているのかどうか現時点ではお答えが難しいです。

(委員)

私は移行支援に関わっていたことがあります、事業所が変わることもあります。KPIを回数や延べ人数が含まれると、その人らしく活躍するインクルーシブな観点からも評価がしやすくなるのかなと思います。特に、それぞれの方の特性に応じて福祉サービスの選択があると思いますが、特にどういう部分が最大公約数的に人が活躍できるのかが明らかになり、そこに評価するところが見えてくるかと思うので、中間評価で関わりの見えるような部分がある

といいのかなと思いました。

(部会長)

KPI は変えにくいので内部の方で考えられないかということですがいかがでしょうか。

(福祉部長)

現在 KPI は人数ということで挙げさせてもらっていますが、どれだけのサービスを受けてどのような効果があったかが本来大事であると考えていますので、評価に挙げる挙げないということもありますが、整理をしたいと考えています。

(委員)

今後の対応のところで、給付型奨学金のさらなる周知という施策がどのようなところに直結するのですか。

(シティプロモーション室長)

コロナの影響によって学業を続けることに不安があるということもあり、給付型奨学金を受けられている学生さんに1回3万円の給付を行っています。当初は9月末まででしたが、後期に奨学金を申請される方もおられるため、2月末まで期限を延ばして多くの方にご活用いただき、若い世代の皆様が学業を続けられ活躍に繋がることの支援ができればいいと思いこの制度の周知を行っています。

(部会長)

施策の基本的な方向①「若者が希望を持ち、楽しみながら個性を生かした多様な活動で活躍しています」というところに沿う施策とのことです。KPI としては 20～39 才の転出超過者に直結するという理解でよろしいですか。

(委員)

給付型奨学金が 20～30 代の転出超過抑制には直結しないのかと思います。それなら、奨学金を抱えている人の方が多いので、それに対する対応をする方が現実的です。今、大学生の半数以上が奨学金をもらって大学に行っているときに、就職してこれから働くぞというときに、「お金を貯めるぞ」ではなく、「借金を返すぞ」というところから始まっています。未来投資ということよりも、20 代で奨学金があるけれどここに来たら楽になれるということで、後々の定住を考える取り組みも必要ではないでしょうか。

(部会長)

加古川が同じようなことをされています。

(委員)

働く場所について、リモートワーク等でわざわざ出社しなくてもよい仕事も増えていますが、高砂市は建設関係が多いので現場に行くと人の手が必要になるという仕事が多いです。

いまの若者がやりたい仕事があるのかどうか、この人についてきて働きながらローンを返していく、働き甲斐のある企業がどれだけあるのか。高砂市は炭素に頼って仕事をしている企業がたくさんある中で非常に怖いと感じています。

(部会長)

脱炭素は東播磨地域にかかわる大きな問題で、加古川は 80%が神戸製鋼さんです。高砂市は製造業が多いので、行政として支援できることとしてお答えがあればお願いします。

(事務局)

第 1 部会でも産業について議論があり、大企業さんのお話にはなりません。地場産業

など地域の魅力を生かしたような産業、地域に根ざした産業をすべきというような議論で、企業の皆さんと協働と一緒に地域を支えるような体制を作っていないといけないという意識はあります。ただどうやったらいいのかが今の高砂市の課題と思っています。

(部会長)

すぐに答えが出ない問題です。若い世代が不安になっているという点で市単独では難しく、第1部会の議論になってくるので、情報共有していきたいと考えます。

(委員)

女性の労働のところですが、保育園だと長くて 19 時から20時まで子どもを預けることができます。小学校にあがって、学童は1～2時間のギャップがあり、1年生になると仕事を変えないと対応できないということも起きています。単に学童の時間を延ばすということだけではなく、保護者に対するサポートがあれば働きやすいと感じました。

(委員)

労働環境の改善として市はどのように考えているのですか。就労年齢が上がってくると、認知症の比率も上がってくる、病気や障がいがあっても企業がサポートするということが大事です。

障がい系の福祉施設だけではなく、いろいろな働き方があるので雇用率の発表にあたり調整をするということだけでは、共生にたどり着かないと思います。具体的に何を、誰がするかということが大事です。

(部会長)

学童の時間を延ばすだけではなく小学校一年生の保護者に対するサポートをもう少し別の方法で考えてはどうかというご意見、ワークライフバランスの中では子育てだけではなくて介護の問題、介護休暇制度もありますが、障がい者雇用、地域福祉計画にも関係しますが具体的にどのように実行していくか行政の支援が必要ではないかというご提案です。

(委員)

達成したことという表現は、実際には実施したことであって、「達成」とは事業を全部やり遂げて効果があったかどうか検証できるところまでであるように思うので文言が不適切な気がします。

(事務局)

意識がそこまで追い付いていないということも実情です。総合計画は5年10年のターンで取り組んでいきますので、ご意見として持ち帰らせていただきます。

(委員)

金融機関では昨年以降、ものすごい金額を金利 0%で融資しています。これからは返済をしていただかないといけないので、アフターコロナに向けて事業化して売り上げを上げていただかないと企業は続いていきませんので、一緒にできることがあれば仰っていただければいいのではないのでしょうか。

(部会長)

地方金融機関として、そうしたお手伝いができるということで非常に励みになると思います。達成したことという表現についてはご検討ください。企業へ広げていかないと活躍の場を拡大したことにならないのかということ、給付型奨学金ということではなくちがう部分での支援が考えられるのではないかということです。

(事務局)

1-1 みんなが子どもを育てるまち【こども支援政策】

1-4 地域で自立を支え合い、つながり合うまち【福祉政策】

(部会長)

福祉の部分でご意見、ご質問、評価をお願いします。

(委員)

今後の対応に記載されているものについて、簡単でいいので3点具体的に説明をお願いします。

(福祉部長)

高齢者の移動支援として新たに今年の10月からタクシー料金の助成事業を実施しました。高齢者の移動については以前から課題であり、議論もしてきた中でコミュニティバスの再編に合わせて要介護1と住民税非課税世帯の方を対象に事業を実施しました。障がい者自立支援事業は、令和2年度は大変大きな伸びとなっています。サービスが必要な人への周知に重点を置くとして挙げています。成年後見制度利用促進計画の策定については今年度策定委員会を設けて議論をしていただいております。来年度から利用作成に役立てたいと考えています。

(委員)

KPIの生活困窮者自立支援制度に関する新規相談受付が令和元年度から比べると約5倍となっているのに対し、生活支援コーディネーターの人数が少ないのではないですか。抱えている仕事が多すぎるようですが対応できているのですか。

(福祉部長)

相談件数は、コロナの影響で融資制度を受ける際は自立制度の相談を受けることが条件となっているため増えています。委員ご指摘のコーディネーターの人数は介護保険事業計画の中で生活支援体制整備を各地区の決まり事を検討していただく際の中心的な役割の方です。生活困窮の相談を受ける相談員ということではありません。

(委員)

社協では、生活困窮者への対応は相談は増えており、詳細な相談も承っている。また、生活支援コーディネーターを配置して相談も受けています。個々の状況に応じて行っているのが現状です。

(部会長)

リーマンショックの何倍もの相談が来ているということということで、きめ細やかな相談で対応していることが現状ということ。貸し付けたお金を回収しないといけませんが、目途もたちません。今後の対応として市としてもやることがあるのではないかとということです。

(委員)

障がい者自立支援事業について精神障がい者の1年以上の入院は高砂市においては80人強おられます。その人たちに対して退院を促進していくことはあまりされていません。精神病院が高砂市にないということで、地域に出たくても出られない人をどうやって引っ張り出すかということを考えないと地域で自立を支え合うということができないし、人権問題でもあります。具体的に考えてほしいです。

(福祉部長)

精神障害をお持ちの方の地域への移管という部分では不十分であると考えています。どの

ようなやり方がよいかということも含めて検討したいと思います。

(部会長)

ケアサポーターを養成して、地域の中に入ってサポートするということを県のほうではやっています。

(委員)

KPI の認知症カフェの運営箇所について、4 か所ということで増えているわけではないですが、実際2～3年度は開催できていないのにこのように評価してもよいのかということを感じます。今年度のいきいき百歳体操のところでも子どもも放課後の活動で部屋の確保の問題でもあります。ポストコロナとして人が集まる政策を続けていくのか、集まる場所をいかにしてポストコロナとして対応するか。行政だけではなく行っていくのが重要であると考えます。

(部会長)

子ども食堂や学童もそうですが、空間の整備としての課題があります。空間づくりという点では行政が支援していく必要もありますが、公共施設の統廃合の問題で3割減をしていかないといけません。リモートにするなら集まらなくても良いという考え方ですが、集まるならば広い空間が必要となります。

(委員)

精神障がい者かどうか分からないが痛ましい事件が起きています。高砂市第6期障害者福祉計画の中で地域包括ケアシステムの推進として載っていて社協と高齢者を中心に構築してきたということですが、精神障がい者を含む地域包括ケアシステムの推進が公示されています。各自治体が構築していった障害者の自立を支え合うというものであり非常に難しいことですが、包括ケアシステムが構築できれば親ではなく、地域が障害者をみるということになり素晴らしいシステムとなります。高砂市として地域包括ケアシステムを早急に構築していただき支え合う高砂市としていただきたいと思います。

(部会長)

地域共生社会は地域でまらごとということで、一方的に支える、支えられるではなく、支え合うというのが根本的姿勢です。障害者福祉計画、高齢者老人福祉計画、介護保険事業計画と関連計画がありますが、そういったものを少しでも促進できるように政策を打ってほしいということです。

(福祉部長)

地域包括ケアシステムの構築は、平成27～28年から進めてもらっていますが、目に見えた構築はできていないと福祉部でも考えています。生活支援コーディネーターとして第2層協議体として支え合いの体制を構築していています。生活支援の構築だけではなく、認知症、在宅医療等も進めておりそれぞれの事業が充実したときに地域包括が出来上がると考えています。

(部会長)

前倒しするような事業はないか、もう少し急いでもよいのではないかとのご意見でした。本日議論できなかった部分については、次回の総合政策審議会にて整理させていただきたいと思います。

2 その他

なし

(部会長)

これで終了とします。

(事務局)

次回の議論は来年1月を予定しています。次回、本日議論ができなかった部分と第1部会の報告もさせていただく午後から第 2 部会を開催します。その結果も1月にお示しします。本日はお忙しい中ありがとうございました。司会進行ありがとうございました。

以上